

授業概要

世界各地で見られる多種多様な文化を比較考察し、それらのあいだの類似性・異質性を探求しながら「文化」そのものについての理解を深めることを目指す。「文化」にアプローチするには幾通りもの方法があるが、ここでは、さまざまな文化人類学者により伝統的に取り上げられてきたテーマに焦点を当てて講義する。あわせて、学生みなさんの興味関心あるテーマも積極的に取り上げていきたい。そこで授業では講義にくわえ、グループワークやディスカッションも取り入れる。さらには、教室での学びとは別に、「グループ・プロジェクト」および「博物館プロジェクト」という、学生みずからが主体的におこなう課題も設けられている。こうした参加型の学びをとおして、みなさん一人ひとりに「大学で学問することの意味」について深く自問自答していただければ幸いである。

授業計画

(進捗状況等により変更する場合がある。)

第 1 回	オリエンテーション：本コースの紹介、授業の進め方、課題の提出、評価の方法など
第 2 回	イントロダクション：文化人類学とは？
第 3 回	「フィールドワーク」と「民族誌」
第 4 回	文化人類学の歴史を概観する 1
第 5 回	文化人類学の歴史を概観する 2
第 6 回	さまざまな生業と社会構造
第 7 回	婚姻・家族・親族
第 8 回	グループ・プロジェクト発表会
第 9 回	性とジェンダー
第 10 回	宗教と儀礼
第 11 回	神話と民間伝承
第 12 回	芸術
第 13 回	「文化」とは？
第 14 回	博物館プロジェクト発表会（前半）
第 15 回	博物館プロジェクト発表会（後半）
第 16 回	定期試験

到達目標

1. 文化人類学の代表的な理論について説明できる。
2. 文化人類学を特徴づける相対主義の立場から、世界の文化的多様性について理解できる。
3. 文化人類学の視点をを用いて、私たちの社会が抱える諸問題について自分なりの意見を述べることができる。

履修上の注意

大学生としての自覚を持ち、みずからの責任を果たすこと。ここでいう「みずからの責任」とは、授業に出席するだけでなく、積極的に関与・発言し、さらには課題を時間厳守で提出することである。単位は与えられるものではなく、みずから取りに来るものである。なお、提出課題で不正（盗用、「コピペ」など）をした場合、たとえそれが初回であっても、即刻、本コースの履修を「不可」とし、厳重に処罰するので十分に注意すること。

予習・復習

その日に扱うテーマについて自分なりの理解や問題意識を持ってから授業に臨むこと。そのためには、事前に教科書を読んでおくことが望ましい。授業後は学習した内容についてクラスメートと議論し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。さらには、授業や課題をとおして学んだことをもとに、現代の世界が抱える諸問題についてみずから考える契機としていただきたい。なによりも、旺盛な知的好奇心を育むことが求められる。

評価方法

以下の方法により総合的に評価する。なお、学期を通じて授業に2/3以上出席しないと定期試験の受験資格を失う（つまり、他の評価項目にかかわらず単位の取得ができなくなる）ので注意すること。①授業への積極的な関与（発言・質疑応答など）10%、②グループ・プロジェクト（発表を含む）20%、③博物館プロジェクト（発表を含む）20%、④定期試験 50% *なお、不正は初回であっても厳重に処罰する。

テキスト

- ・教科書名：文化人類学キーワード 改訂版
- ・著者名：山下晋司・船曳建夫（編）
- ・出版社名：有斐閣
- ・出版年（ISBN）：2008年（ISBN 978-4-641-05886-6）